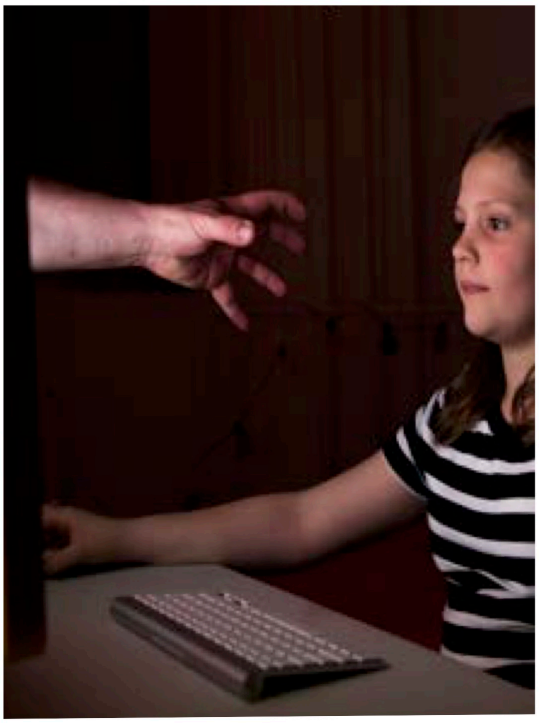
CampbellCollaboration

Plain Language Summary
Crime and Justice Coordinating Group

2017

サイバー乱用への介入はインターネットの安全性についての知識を高めるが、危険なオンライン行動を減らさない



U.S. Air Force graphic/ Tech. Sgt. Benjamin Wilson

サイバー乱用の知識が常に行動の変化につながるわけではない

このレビューの目的は何か？
このキャンベルの系統的レビューは、インター ネットの安全性に関する知識の向上と危険なオ ンライン行動の減少におけるサイバー乱用介入 の有効性を検証するものである。このレビュー で は 、 カ ナ ダ で 実 施 さ れ た 1 件 の 研 究 とアメリカで行われた 2 件の 3 つの研究から得られた知 見がまとめられている。参加者はインターネット や携帯電話を使用する5~19歳で、5年から8 年生の小中学生である。合計 2,713 名が研究に 参加した。

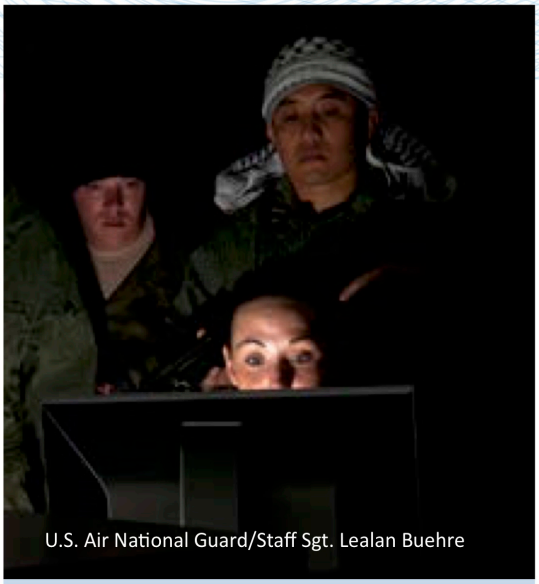
サイバー乱用の蔓延はますます問題になっている。サイバー乱用への介入は、オンラインでの危険な行動を減らすために、子ども、青少年、およびその親の知識と意識を高めることを目的とする。サイバー乱用防止への参加は、インターネットの安全性に関する知識を高めるが、危険なオンライン行動を減少させることはない。

このレビューは何を検討したのか？

インターネットには多くのメリットがあるが、 加害や被害にあう可能性のある場所でもある。 サイバーいじめ、サイバーストーキング、サイバ ー性的勧誘、サイバーポルノなどの諸活動を意 味するサイバー乱用の広がりはますます問題に なっている。 このレビューでは、インターネットの安全性に 関する知識の向上と危険なオンライン行動の低 減を行うサイバー乱用介入の効果を検証する。

何の調査が含まれているのか？

5 歳から19 歳の間の小児および青少年に予防 介入プログラムを実施することについて報告さ れた試験が含まれている。子どもや若者がイン ターネットや携帯電話にさらされていることが結 果変数であった。効果研究は、実験的または2群の擬似実験 的研究デザインを採用したものに限った。カナ ダとアメリカで行われたの 3 つの研究が含まれ てる。主な結果変数は、子どもと青少年のサイ バー乱用、子どもや青少年の危険な行動、サイ バー乱用に関する知識、サイバー乱用によって 被害を受けた人々の心理状態への悪影響であ った。


U.S. Air National Guard/Staff Sgt. Lealan Buehre

このレビューはどのくらい最新のものか？
レビュー著者は、2009年7月までに発表された研究を検索しました。このキャンベルシステマティックレビューは2009年8月に出版された。

キャンベル計画とは何か？
キャンベル共同計画は、系統的レビューを出版する国際的かつ自発的な非営利研究ネットワークである。我々は、社会科学と行動科学において、プログラムについてのエビデンスの質を評価しまとめている。我々の目的は、人々のより良い選択と、より良い政策決定を支援することである。

この要約について
この要約は、キャンベル・システマティック・レビュー2009:2 Interventions for children, youths, and parents to prevent and reduce cyber abuse: 著者 Faye Mishna, Charlene Cook, Michael Saini, Meng-Jia Wu, and Robert MacFadden (DOI 10.4073/csr.2009:2). を基にした。Tanya Kristiansenは要約をデザインして編集した。この要約の作成のための米国研究所からの支援に感謝の意を表明します。

この調査の主たる結論はなにか？
サイバー乱用の介入と予防は、インターネットの安全性に関する知識の向上に関連する。知識の向上にもかかわらず、介入を受けた学生は、自分の名前を公開したり、オープンチャットルームに参加したり、見知らぬ人にメールを送るなど、不適切なオンライン行動に関与する可能性は低下しなかった。
3つの調査は、以下のサイバー乱介入の評価であった。それらはI-SAFEサイバー安全プログラム、サイバー安全性欠如プログラム、および学校内のサイバーいじめ介入(HAHASO)である。I-SAFEのサイバーセーフティは、インターネットの安全知識に最も大きな効果があった。欠如プログラムとHAHASOの両方は、介入がインターネット関連の安全性の態度を大幅に変えず、サイバーいじめ経験の報告数を減らさなかったことを示唆している。サイバー乱用の防止と介入に対する厳密な評価に利用できる研究の数が少ないことを考えると、これらの結論の根拠となるエビデンスは弱い。

このレビューの結果は何を意味するのか？
このレビューでは、インターネットの安全性の問題を改善するうえでサイバー乱用介入が肯定的な効果を有しているという一貫したエビデンスが示されているが、サイバー乱用の知識は必ずしも行動の変化につながるとは限らないことが示されている。サイバー乱用の予防と介入がインターネットの安全知識を増やし、危険なオンライン行動を減らす効果についての現在のエビデンスの質の低さは、分析から強力な推論を引き出すことを妨げる。インターネットの安全性の創出と危険なオンライン行動との関連を探るためには、さらなる研究が必要である。
より多くの研究、特にこのような介入の影響が若年層および高齢者に及ぼす影響を調べる調査は、このレビューの調査を5年生から8年生までの小・中学生にのみ重点が置かれていることを前提にして実施すべきである。この調査の有効性は、より大きなサンプルサイズによっても恩恵を受けるであろう。

The Campbell Collaboration
info@campbellcollaboration.org
Phone: (+47) 23 25 50 00

Mailing address:
P.O. Box 4004, Nydalen
N-0403 Oslo, Norway

Visiting address:
Pilestredet Park 7
(Entrance from Stensberggata)

Website:
www.campbellcollaboration.org

EN-0044